

## いわき農林事務所ニュース

2007年 7月号



### ◎活動状況

- ・ [森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林整備」を実施](#)
- ・ [渡辺小学校の「田んぼの学校」\(その4\)](#)
- ・ [平成19年度第1回いわき地域有機農産物等普及推進会議を開催](#)

### ◎トピックス

- ・ [品目横断的経営安定対策への加入申請手続き相談会開催](#)
- ・ [記念碑除幕式・竣功式](#)  
～経営体育成基盤整備事業 渡戸地区～

## 活動状況

### ◎森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林整備」を実施しました

6月10日(日)、新舞子海岸において、森林環境税を財源としたボランティア事業「みんなで育てる海辺の松林整備」を実施しました。この日は、朝から雨が降り続いていましたが開始時間にはなんとかあがり、16名のボランティアの参加により開催にこぎ着けることができました。

はじめに木製の柵の設置を行いました。この柵は昨年度の「みんなで育てる海辺の松林整備」でクロマツの植栽を行った箇所がむやみに踏み荒らされることがないように設置するとともに、風による砂の移動を抑えて苗木が生長しやすい環境を整えることを目的としています。今回は約50mの設置を目指し作業を開始しました。あらかじめ立てておいた杭木に横木をボルト留めし、次に横木に風を抑えるための縦木をビス留めます。ビス留めは電動工具で行いましたが、電動工具の扱いに慣れていなくて悪戦苦闘する方、早々に要領をつかんで快調にビスを打ち込む方と様々でしたが、参加者のみなさんにはモノを作る楽しさを体験していただけましたと思います。

縦木設置の作業をしている最中に段々と風が湿っぽくなり雨の気配が濃厚となってきたので、作業を途中で切り上げ(後日、職員が完成させましたのでご心配なく)、森林環境税と保安林制度、新舞子海岸の松林の成り立ちの歴史や松林が果たしている役割を講義内容とした環境学習会を行いました。



作業の様子



環境学習会の様子

最後に設置した柵の陸側にクロマツの苗木を植栽しました。雨の中、みなさん黙々と植栽を行っていきます。無言で作業すること約20分、200本のクロマツが整然と植えられた頃には雨もあがりました。クロマツにとっては恵みの雨だったかもしれません。



完成した木柵

この日設置された柵が朽ち果てる頃には、クロマツは立派に生長し防風線の最前線となっていることでしょう。今年度は10月27日（土）と11月11日（日）にも同様のボランティア事業の実施を予定しておりますので、興味のある方はいわき農林事務所森林林業部森林土木グループまでお問い合わせ下さるか、いわき農林事務所のホームページをご覧になって下さい。

田んぼの学校の活動として6月は、13日に「土地改良施設見学」、14日に「かかしづくり」、26日に「草取り」の各活動を行いました。

「土地改良施設見学」では、鮫川堰土地改良区の用水施設である「杉ノ沢分水」及びトマト水耕栽培における最先端栽培施設「農業生産法人いわき小名浜菜園」、さらに、水資源の大切さ、水環境の重要性の理解を深めるために下水道処理施設「いわき市中部浄化センター」をそれぞれ見学し学習しました。

今回は、「食彩ふくしま食育推進事業」と連携して実施しました。活動のねらいとして、各施設の役割を学ぶことにより、米作り・野菜作りへの興味を育み、いわきの農業、更には「いのちと健康」を支える農林水産業に対する理解を深めることとしました。

児童達は、各施設の担当者の説明に興味深く聴き、メモを取るなど熱心に学習していました。児童達の農業に対する関心の向上に期待しています。「かかしづくり」では、地元農家の応援団の指導を受けながら、3体のかかしを創作しました。児童達は、それぞれに作成したイメージ画をもとに顔を作ったり衣装をつけたりしました。

児童達は、かかしの田んぼデビューを心待ちにしている様子でした。

「草取り」は、農業普及指導員が、雑草の種類や特徴、除草の必要性等を説明した後、手作業で行いました。雑草の繁茂状況が相当であったため、予定時間を超えての作業となりました。さらに、「田車」を使用した除草作業を児童全員が体験しました。「田車」は、底部に車輪状に鉄製の爪が付いた手押し除草機です。児童達だけで操作するのは相当困難なため、地元農家の応援団等の補助を受けながら作業を行いました。



かかしづくりの様子

今回は、除草作業の大変さ、無農薬栽培の苦労を体験することとなりました。このことにより、児童達の収穫に対する感謝の念や食に関する理解が深まることを望みます。

7月は、児童達が最も楽しみにしている「かかしたて・田んぼの運動会」を予定しています。

6月19日(火)、平成19年度第1回いわき地域有機農産物等普及推進会議と有機栽培実証ほでの現地検討を行いました。

いわき農林事務所では、昨年度より本会議を設置し、関係機関・団体と連携して有機栽培等の技術の普及や産地化を推進しています。

会議には有機栽培等実証ほの担当農業者や県、市、JAなど関係機関・団体に加え、流通・販売の関係者にも出席いただき、本年度の普及推進計画について協議するとともに、いわき地域における有機農産物等の普及拡大に向けた意見交換が行われました。

また、引き続き行われた現地検討では、水稻の有機栽培実証ほにおける生育状況を確認しました。現地ほ場では、有機栽培における最大の課題である雑草対策として散布した米ぬかやくず大豆の効果やイネミズゾウムシ侵入防止対策として設置した畦波板の効果などを実感することができました。

今後も、定期的な開催により、有機農産物等を活かした農業の振興を図っていくこととしています。



会議の様子



現地研修会の様子

## トピックス

6月6日(水)、いわき市地域担い手育成総合支援協議会主催の品目横断的経営安定対策への加入申請手続き相談会が、JAいわき市において開催されました。

品目横断的経営安定対策は、地域の農業の担い手である、経営規模が一定以上の認定農業者や集落営農組織の経営安定を図るための国の支援措置で、収入が減少した場合の一定割合の補てんや、大豆・麦等の過去の生産実績や毎年の生産に応じて助成が受けられるものです。

相談会は、いわき市内の認定農業者22名が出席し、福島農政事務所地域第三課から、品目横断的経営安定対策の仕組みや手続の方法について説明後、地域営農支援チーム(6方部)が、個別の相談に応じました。

また、協議会の地域営農支援チームでは、対策の加入要件を備えている認定農業者の方に対して、戸別訪問や、加入申請書作成の支援等を行った結果、いわき市内においては31経営体(29名の認定農業者及び2組織)が対策の加入手続を行いました。



相談会の様子

6月27日(水)、いわき市三和町渡戸地区で進められていた経営体育成基盤整備事業の記念碑除幕式・竣功式が行われました。神事では、いわき市長が「甦える大地、竣工之碑」と揮毫した記念碑を、いわき農林事務所長、いわき市副市長、三和土地改良区理事長、渡戸地区代表理事らが除幕し、工事の完成を祝いました。その後の竣功式典においては、当所農村整備部長の工事経過報告の後、知事感謝状贈呈等が行われました。

本事業は、総額3億6,050万円をかけ、平成11年度から平成16年度までの6年間に、区画整理27.5ha、用水路4,778m、排水路5,666m、農道3,667mを整備しました。

今後は、整備された大区画ほ場により、担い手への農地集積や大豆の集団転作等の展開が期待されます。



除幕式の様子

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]